

2020年6月25日

私のロータリー観

白鳥 政孝

私は1981年9月、46歳の時に市原ロータリークラブに入会して以来ロータリアンとして39年間在籍しています。今、クラブでは最高齢者ですが、移動に安全で負担のかからない昼間の例会のみに出席している状況です。

今回、地区理念研究委員会の企画で、4月に先輩ロータリアンから聞く「私のロータリー観」を述べる機会を得たのですが、コロナ禍により中止になり、代わりに原稿の提出を依頼されました。

「私のロータリー観」といっても約40年の間にロータリーに対する思いは、ロータリーの役職を消化していくにつれ変化してきました。というよりは、汲めども尽きぬロータリーの思想の深さに圧倒され続けて今日にいたりましたので、ロータリーとの出会いは本当に良かったと思っています。

次々と任命された役を果たすことから、数多くの体験を積み、幅広い知人、友人を得て知識を授かり、私の人生そのものにもものすごい影響を与えてくれています。

最近ロータリーとはいったい何かと思うことがあります。一言でいえば、それは佐藤千壽先生の訓えですが「ロータリーは人作りである」に帰すると思います。これが40年間で得た「ロータリー観」です。

ロータリークラブに入会した頃（昭和56年）は人生50年から60年といわれており、生命保険は全て60歳で満期として、仕事も還暦を迎えたら離れようと決めていました。

61歳に仕事を離れ、ロータリー以外のすべての公職をも辞し、フリーの身になり、好きなヨットに興ずるつもりでいたのですが、そのタイミングにあわせるように地区委員会に出向（1994年）の命を受けることになりました。

最初は地区職業奉仕委員会に所属し、6年間それなりの方々の警咳に接して目覚めることができ、ロータリーの本質を見る思いでした。ロータリーの思想や理念とともにお会いしたロータリアンに魅せられてロータリーにとっぷり浸ってしまいました。

引き続き分区代理（現在のガバナー補佐）や「ロータリーの友」地区委員と地区青少年委員を務めることができました。2005年にはガバナーエレクトを受けざるを得なくなりましたし、あわせて2006年～2008年にわたり、異例である2年度連続のガバナーを務めることになりました。この間、2007年の上半期はガバナー職を務めつつガバナーエレクトの任務をも行うというダブルスタンダードの役をこなしました。

この時は気持ちの切り替えが大変難しく苦悩した覚えがあります。時にガバナーとして時にはガバナーエレクトとして毎日のように苦手な文を綴っていたように記憶しています。

二回目のガバナーの就任のとき、第3分区の13クラブから1名を選出していただいて地区幹事団や月信担当を構成しました。窮余の策として初めての試みでしたが、人物を得て素晴らしい選抜チームを組むことができました。ロータリーの良さを再認識したのです。この絆はいまに至るも強いものとなっています。2年連続ということもあって幹事団は短期間のうちに地区会計を根本から見直して明確な会計システムを立ち上げました。さらにガバナーエレクトの経費を初めて予算化できたことが印象に残っております。これは、選抜幹事団の熱意と二年続きのガバナーだからこそできたことだと思います。

ガバナーの任務を終えてからも地区研修リーダーを2回、日本青少年交換委員会の社員、米山記念奨学会の広報委員会委員、ポリオ撲滅第1ゾーン・コーディネーターと2017年度まで毎年連続でロータリーの役目を務めることになりました。卓話や各種セミナー、IMなどのスピーチを依頼され、その都度にロータリーを深く究めるようになり、ロータリーの本質を次第に身に付けるようになりました。これは私の人生にとってはかり知れない影響をおよぼしてくれたのです。ここにも「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という行動原理が働いていたよう思います。

多くの学びと体験から人間関係はイーブン（対等）であることを悟り、どんな人に対しても目線が同じであることが大切なのであり、なおかつ大事なこともあることを知りました。

自分のことより他を思いやり、他を尊重しあう対等の関係からの話合い（対話）は人間性向上に大いに効果を発揮しています。「戦争・暴力の反対語は、平和でなく対話である」ことを知り、物事の本質を求めていく習慣が自然と身に付いてまいりました。

対話の効力を理解でき実践したのはR L I（ロータリーリーダーシップ研究会）のプログラムに参加した時であり、とても役に立ちました。

世の中に、なぜ思想があり哲学がある理由（訳）も理解できるようになり、一段とロータリーが大きな魅力となってきました。

取引の損得で物事を処することは瞬間効果があるかもしれないが、将来を見据える点では足もとが定まらず、不安定そのものであります。基本にしっかりした生活信条がなければならぬと確信しました。いわゆる人生哲学・思想がなければ右往左往するばかりで浮き草そのものになってしまいます。

熱心に人の話を聞き入れ、その人の思想や知識を吸収することは大切であり、未知の分野にも触れることもできます。それらのことが私の人生を一層豊かにしてくれました。またロータリーは読書の楽しみも教えてくれたのです。これらがすべて23年間にわたるロータリー活動の賜であります。いわばロータリーからの賜物であるのではないかと思います。この哲学や思想こそが私の二毛作人生の基盤となっているのです。

近年ロータリーで培った実践哲学を己の生活に、また、会社経営に反映させてみると素晴らしい効果が上がることを知りました。元来ロータリーは実業人の集まりであるから、そこで討議される理念や哲学は実業を営む者にとっては有効な理念や哲学である訳です。ロータリーの歴史は「超我の奉仕」「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」「四つのテスト」「ロータリーの中核的価値観」など素晴らしい理念を展開して学びの場を提供しています。もちろん机上で理論を学ぶだけではありません。

ロータリーは理念を実践（体験）する機会をも与えています。しかも世界中にロータリーのネットワークを張り巡らし、世のため人のためになる事業を行っていることから、ロータリーを味わえば味わうほど人生に豊かな彩を添えてくれています。先輩ロータリアンの真摯な活動によってロータリーの信用は絶大でありますので、この信用を大事にして世に役立つ人間になりたいと思っています。

これからも己の「足るを知り、『財の道』に走らず『徳の道』を歩んでいきたいと思い、他の人や社会のお役に立つためにはどうすればよいかを愚直に考えて、ささやかながら社会の一隅で行動していくつもりです。

おりしも新型コロナウイルスがパンデミックとなり、人類に不安と恐怖を与えています。

100年に一度ぐらいにやって来るウィルスのパンデミックは人類の社会構造や考え方に変化をもたらしてきています。ほんの一握りの人が富を独占し貧富の格差を拡げている世情と同様に一握りの権力欲にとりつかれた独裁者によって無駄な軍拡競争を強いられている現状があります。これらを見るにつけ、コロナ禍後、対話が盛んに行われて、本当の民主化が進み、人種差別や格差社会が是正され、不毛な軍拡競争が無くなってほしいものです。

その資金を自然環境保護や自然環境再生、医療設備の充実や従事者の育成、さらに国や人びとの所得格差をなくす社会に変わることを夢んでいます。

一介の生業を営んでいた私を、実にさまざまな体験をさせてくれたロータリーに感謝し、私の話を終わります。

白鳥政孝 PG （市原 RC）

